

水道が導く豊かな生活

北会津中学校 一年 遠藤 駿太郎

きれいで安全な水を飲むことができ。この恩恵を私たちは当たり前前のことと思っ
てはいないでしょう。私たちが住む日本では、都市部でも地方でも安定して水道水を使用
することができ。しかも家庭や学校、公園などの水道から、きれいで安全な水を直接口
にすることもできるので。世界

世界の国々に目を向けてみると、きれいで安全な水道水が飲める国は、ほんの十数カ国
です。日本、カナダ、オーストラリア、スウェーデンなどがそれらの国です。それらの国
々にはある共通点があります。それは広大な森林の存在です。日本の国土も約七割が森林
で占められています。森林には水を蓄える機能、さらに水を浄化する機能もあります。つ
まり日本の水がきれいな理由として、森林資源の恩恵が大きいことがあげられます。
しかし、いくら日本に森林が多いといっ

も、その恩恵を受けられる地域は限られます。どの地域でもきれいで安全な水を安定して利用できる生活。それを支えているのが水道です。

ではどうして日本の水道水はきれいで安全なのでしょ^うか。水はきれいだから安全とは言えません。水がいくら豊富でもそのまま飲める環境はまれです。きれいに見える水でもその中には身体に害を与える物質や細菌などが存在していることもあります。そこで安定的に供給できる規模の川や湖沼の水を浄化。ろ過して水道水として使用しています。

さらに日本には特に厳しい水道水の審査基準値があります。それが「日本の水道水は世界一」と言われる理由です。その背景を調べていくと、あるところにたどり着きました。それは一九五七年に施行された「水道法」です。その基準は、とても厳しいものです。なぜなら「水道水を生涯飲み続けても人体の健康に全く悪影響がないこと」が目的となっ

いるからです。これは「水について一切妥協
しません」という日本の水道水に対する決意
表明なのではないでしょうか。水道法が施行
された時代は日本が戦後間もない頃です。経
済的にも豊かではありません。衛生環境も不
十分だったはず。そこで「人を豊かにす
るものは何なのか」と考え抜いたので、
ないでしようか。そして出した答えが「きれ
いで安全な水道水」だ。たのだと思います。
きれいで安全な水が安定的に供給される環境
がある。そこ。今の私たちが安全に生活でき
ているのです。

また、安全できれいな水をつくる技術も進
化しています。これまでの水道水は主に「砂
ろ過」で浄化され、その後「塩素消毒」する
方式をとってきました。しかし最近では新たな
水道水の技術として「膜ろ過方式」が実用化
されてきています。私の住む会津若松市には
平成三十年四月に稼働を開始した滝沢浄水場
（愛称・こしえる）があります。その浄水場

は、最新の技術であるセラミック膜ろ過装置を使用しています。セラミック膜ろ過装置を使った浄水場としては東北最大級であり、市民に安心して安全な水道水を安定して供給してくれています。滝沢浄水場の膜ろ過方式は、0.1マイクロメートルという極めて小さな孔に原水を通過されるろ過方式で、ゴミだけでなく細菌までも除去できる優れた能力があります。

「ポンパンの奇跡」という言葉を耳にしたことはないでしょうか。ポンパンはカンボジアの首都です。カンボジアは、長年に渡る内戦の影響で水の供給が途絶え、配給される水の質も悪い状況だったそうです。そこで日本が協力し、新しい水道システム「膜ろ過方式」を導入しました。さらにその管理についてモニユアルに基づき徹底しました。これにより今では家々の蛇口からいつでもきれいな水が出る、水道水をごくごくと飲むことができるようになりました。さらに徹底した

管理により、ろう水も日本並みの六%という環境にまでなつたそうです。ろう水がないことも水の安全供給に欠かせない重要なことだとわかりました。水資源に恵まれない国々では、日本の従来の浄水方法では飲み水にはできないような水源を用いているところもあります。しかし膜ろ過方式による浄水技術は、それらの国々の水環境を変える力を持つているのです。

日本の水道水は、けして当たり前前の産物ではありません。自然の恵み、きれいで安全な水を届けようとする強い思い、そしてそれをかなえようと努力する取り組みや技術によって成り立っているかけがえのない存在です。私たちは、そのことを忘れないようにしなければなりません。そしてきれいで安全な水を世界に普及していく活動にも目を向けていくべきです。